

ライダーを媒介に「来やすく、居やすく、また来たくなる町」に

持続可能な観光とバイク文化創出

埼玉県秩父郡の山あいに位置する小鹿野町で、ボランティア団体「ウェルカムライダーズおがの」は、オートバイを活用した地域活性化の取り組みを官民一体で推進している。ライダーを温かく迎える環境整備を軸に、観光振興や交通安全、交流人口の拡大など多面的な成果を生み出している。

同町は人口1万人弱ながら、面積は県内の町で最大規模を誇る。国立・



県立公園に囲まれた自然環境と交通量の少ない道路条件を備える。2005年の両神村との合併後、新たな地域の魅力創出が課題となる中、すでに訪れていたツーリング客に着目した。

06年に行政主導で「オートバイによるまちお

こし事業」を開始し、10年には地元企業や住民らが参画する団体として「ウェルカムライダーズおがの」が発足した。

「来やすく、居やすく、また来たくなる町」を掲げ、町ぐるみの受け入れ体制を構築してきた。

具体策として、町内2カ所に二輪車専用駐車場を整備した。また、警察や交通安全協会と連携した「マナーアップキャンペーン」を展開するほか、小鹿神社を交通安全祈願の拠点として発信している。観光・飲食情報をまとめた「ウェルカムライダーズマップ」の無償配布や交流イベントの開催により、滞在満足度の向上を図っている。

さらに、SNSやホームページによる情報発信、地元警察と連携した交通安全啓発、カーブミラー清掃や環境美化活動を継続し、安全で安心な走行環境づくりを進めてきた。

こうした積み重ねは、警察署管内で死亡事故ゼロ5千日超という成果として表れている。来訪者の増加は飲食店や宿泊施設、物販店へと波及し、地域経済の活性化にも寄与している。ライダーとの交流拡大は町民の結束力を高め、関係人口の創出や移住意向の醸成にもつながっている。



25年には二輪業界と自治体の連携事例として産業フォーラムの開催地となり、地域づくりの先進モデルとして全国的な評価を獲得した。オートバイを媒介とした交流は同町の重要な地域資源へと成長し、持続可能な観光と新たなバイク文化の創出をけん引する取り組みとして注目を集めている。

ウェルカムライダーズおがの

【受賞者コメント】このたびは、CSP大賞選考委員特別賞を賜り、誠にありがとうございます。小鹿野町では2005年から、ライダーを町ぐるみで温かく迎える取り組みを続けてまいりました。このような地域一体の取り組みが評価されましたことは、関係者いっしょにとりまして大きな励みとなります。今後も交通安全の推進と地域の活性化に貢献できるよう、活動を継続してまいります。